

令和8年度 ミニトマト(アンジェレ) 技術情報 No. 1

《R7の反省を踏まえて》

5月中に必ず定植を終えること！

ホルモン処理と摘花を徹底し、確実に商品収量をUPしよう！

今回の



- ① 定植後は手かん水で活着を促し、液肥施用などで初期生育を確保しましょう。
- ② 越冬害虫の発生に注意し、初期防除を徹底しましょう。
- ③ 葉かび病は防除暦を参考に発病前からの予防に努めましょう。

1 定植後の管理

- (1) 定植後は活着するまで**手かん水**を実施します。かん水量の目安は1L/株です。ハウス内湿度の上昇や地温低下を避けるため、**晴れた日の午前中**に行いましょう。
- (2) 初期の肥料切れは後半の草勢や全体収量に影響します。圃場を確認し、**葉色が淡くなる前に液肥を施用**しましょう。
- (3) 気温は**日中25~28℃、夜間12℃**を目標に**換気と保温**で調節します。高温期に備えて**遮光資材**を準備しましょう。
- (4) **追肥**は、**3段目が開花**した頃から開始し、草勢を見ながら10~14日毎に**窒素成分で2g/株(野菜追肥S535では10g程度)**を施用します。

2 病害虫防除のポイント

- (1) 「TYアンジェレ」は**葉かび病(Cf-9)**に抵抗性を持つ品種ですが、**草勢の低下**や**薬剤散布が不十分**な場合には病気が増加しやすくなります。草勢維持に努め、**発病前の予防散布を徹底**しましょう。
- (2) 定植から梅雨時期までは、**葉かび病(すすかび病)、アブラムシ類、アザミウマ類**の発生に注意しましょう。**害虫は初期防除を徹底**します。
- (3) **病害防除**は防除暦を参考に、**発病前から10日間隔**での散布を継続します。散布時は、下位葉の表裏まで十分にかかるように丁寧に散布しましょう。
- (4) 菱ちょう病などの**土壌病害**の拡大防止のために、他の生産者ほ場を訪問する場合には、**靴カバーを着用**しましょう。

3 ホルモン処理と摘花について

- (1) トマトトーンによるホルモン処理は**確実な着果と肥大促進**の効果があります。
- (2) **処理の適期は、開花前3日から開花後3日位**です。
- (3) ミニトマトは花数が多いので、**ひとつの花房あたり数回の処理が必要**です。ただし、使用回数は1花につき1回までです。使用回数を超過しないため、トマトトーンを希釈するときは、食紅を添加し、処理済みの花に赤い目印がつくようにしましょう。
- (4) 使用する場合は農薬登録を遵守してください。

表1 トマトトーンの農薬登録内容

作物名	使用方法	希釈倍数		使用時期	使用目的	本剤の使用回数
ミニトマト	散布	低温時 (20℃以下)	50倍	開花前3日 ～開花後3 日位	着果促進、 果実の肥大 促進、熟期 の促進	1花につき 1回
		高温時 (20℃以上)	100倍			

※令和8年3月18日現在の農薬登録情報に基づき作成しています。



図1 トマトトーン散布のポイント

- (5) アンジェレは1花房あたり20花(果)を目安に摘花します。
早めに摘花することで、草勢維持や果実サイズの確保につながり、収量が安定します。

★**いわてアグリベンチャーネット** URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>
岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください!!

★**2月26日～5月31日**は**山火事防止運動月間**です。

春は乾燥し、風が強い日が多いため、山火事が起こりやすくなります。

令和8年山火事防止運動統一標語「山火事を起こすも防ぐも 私たち」